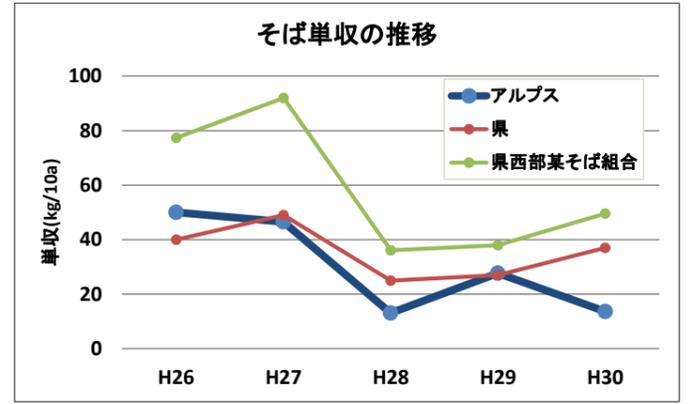


そば栽培管理情報 (第1号)

令和元年8月2日
アルプス農協管内農業技術者協議会

JA アルプス管内のそばの単収は右図のとおりとなっています。単収が低い主な理由は、排水対策の不徹底です。単収の高い他の産地では、排水対策を徹底し、適期の播種に努めています。

そばは、畑作物の直接支払交付金の対象となっており、単収が高いほど補助金も増えます。



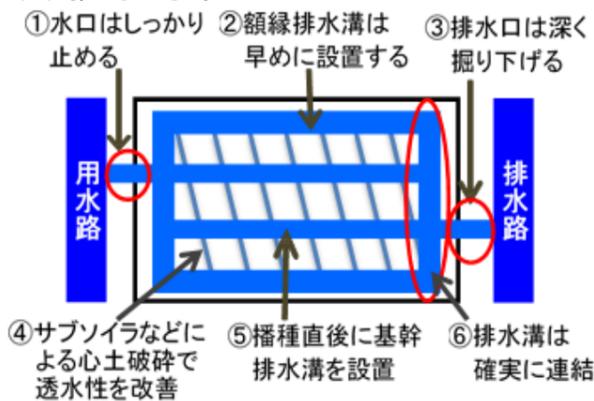
収入アップのためにも、排水対策と適期での播種を徹底しましょう！！

1. 圃場の選定と排水対策～そばは初期の湿害に非常に弱い～

(1) 圃場選定時の注意点

- ①単作の場合：水はけの良い圃場を選び、早めに額縁排水溝の設置等の排水対策を行きましょう。
- ②後作の場合：そばの播種適期を考慮し、大麦跡やWC S跡等の圃場を選びましょう。

(2) 排水対策



<ポイント>

- ・用水路や水口からの漏水をしっかり防止する。
- ・額縁排水溝は早めに設置（大麦跡では額縁排水溝の手直し）し、深く掘り下げた排水口へ連結する。
- ・透水性の悪い圃場では心土破碎を実施し、圃場の乾きを促進する。
- ・播種後は基幹排水溝（1.5～2m間隔）を設置し、額縁排水溝や排水口と確実に連結する。

2. 土づくり資材の施用

pH6.0～6.5を目標に石灰質資材(粒状貝化石 100kg/10a)を施用するとともに、堆肥等を積極的に施用しましょう。

3. 播種作業

天気予報を参考に、**適期**を逃さず**播種**！



表1 播種時期及び播種量

(1) 播種時期及び播種量

- 播種作業は、平坦地では8月中旬から下旬（中山間地は8月上旬から）を目安に行いましょう。
- 播種時期が早すぎると開花時の高温による稔実不良や倒伏の危険が、遅すぎると初霜に遭う危険があるので、適期播種に努めましょう。
- そばは茎が中空で根張りが浅いため倒伏しやすく、雷雨や台風等の強めの雨風で被害が大きくなる場合があります。危険回避のため**播種時期を分散**させましょう。
- 耕起後、播種前に雨に遭うと、その後の砕土・整地・播種作業が困難になります。一連の作業は、天気の良い日に一日で行いましょう。
- 発芽時の過湿は著しく発芽率を下げるため、**播種後に大雨が予想される場合は、播種作業を延期**して下さい。

| 播種時期 | 播種量 | 目標苗立ち数 |
|---------|-----|-----------|
| 8月中旬～下旬 | 条播 | 4～5kg/10a |
| | 散播 | 6～7kg/10a |

* 播種晩限：9月10日頃(参考：初霜の平年値は11月20日頃)



冠水した部分が出芽不良となっている。

(2) 播種方法

ドリルシーダー等を使用し、**播種深度3cm程度、条間30cm程度**を目安に播種を行う（トラクターに片培土機等を装着することで、排水対策も同時に実施できる）。

(3) 基肥

- 基肥は、窒素分量で**2kg/10a程度**を目安とし、地力に応じて施肥量を加減してください。
- 肥沃な圃場や前作物の肥効が残っている場合は、基肥は施用しないようにしましょう。
- 初期の生育量が不足した場合は、開花始め頃（播種後20～30日）までに窒素成分で2kg/10a程度を追肥しましょう。

【基肥例】

BB084:20kg/10a程度

窒素が多すぎると過繁茂になり、倒伏しやすくなるので注意！

【次回のそば情報（病虫害防除等）は8月下旬に発行予定です。】